

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873300283
法人名	医療法人 辻井循環器科内科
事業所名	グループホームつじい
所在地	愛媛県東温市田窪253番地2
自己評価作成日	平成 28年 9月 30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28年 11月 4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>健康管理が行き届いている。 職員が真面目に努力し、精一杯対応できていて好感が持てる。 精神面、健康面でサポートしてくれる。 利用者は、楽しく笑いあいながら毎日を送っている。 家庭的で寂しくなく、温和に過ごしている。 環境も良く落ち着いた雰囲気もあり、明るいホームである。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所の役割として地域との共存や利用者一人ひとりの尊重を心がけている。利用者が日々の暮らしを安全で安心して楽しく過ごしてもらえるように、職員全員で話し合っケアを行っている。法人母体が診療所ということもあり、定期的な往診や急変時の対応など医療連携ができています。開設時からターミナルケアにも取り組んでおり、穏やかに安心して最期まで事業所で過ごせるよう努め、慢性疾患等の利用者も安心して生活できている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

事業所名 グループホームつじい

(ユニット名) 西館

記入者(管理者)
氏名 吉岡 隼児

評価完了日 平成 28年 9月 30日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 利用者一人ひとりの個性を尊重し、地域に密着した生活を支援していく事を理念とし、地域との交流を大切にしたグループホームを目指している。</p> <p>(外部評価) 社訓とグループホームの理念があり、「共に生きる。一人ひとりの気持ちを大切にする。きめ細かな健康管理。地域との交流を大切にする。」のケア理念は、職員みんなで話し合い決めている。職員には、申し送り時に定期的に伝えてケアに反映できているか確認している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地方祭、敬老会、文化祭などの地域行事に利用者と共に参加し交流を持っている。近くを通られた方へも挨拶や声掛けを行い、地域の方々との交流が持てるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 地域の行事（秋祭り、夏祭り、敬老会、文化祭など）には積極的に参加している。亥の子は、建物の中に入って来てもらっている。法人のデイサービスに参加することもあり、今後は地区で催しているサロンへも参加したいと考えている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 認知症の方に対する介護方法や理解、関わり方などの相談にいつでものれるようにしている。ボランティア、研修の受け入れ体制がある。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 会議で話し合い出た意見を取り上げ、管理者や職員間で話し合いサービスの向上に活かしている。報告書は会議参加者全員に配布している。	
			(外部評価) 会議には利用者家族、区長、民生委員、市担当者、地域包括支援センター職員などが参加している。会議では、事業所の利用状況や活動報告を行っている。消防の方から東温市の救急の問題などについて話があったことを伝えると、参加者からは情報を知ることができて良かったと感想をもらっている。ただ、事業所内のことにはあまり発言がないため、個人情報に配慮しながら、もっと開けた場所になりたい、地域との関係づくりを進めたいと考えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 2ヶ月に1回実施している、運営推進会議などで交流を持っている。	
			(外部評価) 東温市との協力関係は良好で、運営推進会議にも必ず参加してもらっている。管理者は日常的に長寿介護課へ行き相談する関係ができています。2年に1度の実施指導の際にも助言をもらい改善している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 利用者の安全面に注意し、精神興奮や暴力行為などが見られる場合、職員間で身体拘束を行わない方法での対応について話し合い、常に身体拘束のないケアに取り組んでいる。	
			(外部評価) 身体拘束についての研修を実施し、理解を深めている。車通りの多い県道に面しているが、玄関に施錠はしていない。新規の利用者は玄関の扉が開くとチャイムが鳴るようにして様子を見ているが、今のところ外へ出る方はいない。安全面を考慮しつつ、できるだけ自由に生活してもらえよう努めている。危険な場合は職員で話し合いをして対応を検討している。安全面を考慮の上家族同意の下、居室には双方から開け閉めできる鍵を設置しているユニットもあるが、通常は施錠していない。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会に参加し学んでいる。制度内容はミーティングなどで説明したり、内容書類を回覧して職員全員が把握できるようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修などで学び、報告書を作成して職員に内容を説明している。内容書類を回覧して職員全員が把握できるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者、ケアマネ、職員が詳しく説明し、質問や施設見学等にも対応している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議の家族さんの参加により、意見や要望を受けています。日常においては、利用者や家族さんからの意見や要望は、いつでも受け付け、対応は管理者が行い計画担当者間で報告しあっている。	
			(外部評価) 運営推進会議に参加してもらったり、意見箱も設置しているが、利用者や家族からの運営に関する意見は得られていない。法人の他の事業所の管理者等と相談しながら、家族からどんなことをしてほしいかなどを答えやすいようにまとめたアンケートを作成したいと考えているが実現していない。	事業所では、運営に限らず利用者や家族から意見や要望を気軽に聞ける関係づくりを目指している。利用者や家族から、運営や普段の生活の中でどんなことを希望しているか、改善点などがあるか、職員全員でアンケート用紙の作成に取り組むことを期待したい。職員一人ひとりが取り組むことで、事業所の一員として介護に対する意識の向上にもつながることに期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 定期的にミーティングを行い、管理者と職員間で話し合いをする機会を設けている。朝の申し送り時に、管理者がそれぞれの意見や提案を聞く機会を持っている。	
			(外部評価) ケアカンファレンスでも自由に意見が言えるように、ユニット間で話し合いができるようになってきている。職員の人数に限りがあるため、日々の介護はある程度役割分担を行っているが、研修の資料作成も職員が分担するようになり、今後は、それ以外の日常業務等も少しずつ他の職員に割り振れるよう検討しており、そうすることで気づき等意識が変わるのではないかと考えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員それぞれの得意分野が活かされるよう、お互いに協力し合い競い合い働けるような体制を心がけている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内外の研修に積極的に参加している。研修資料は全員が目を通し、レポートを書いている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 各種講習会や勉強会に積極的に参加したり、外部研修の受講時に同業者と交流を持ち、他の施設の取り組みを参考にしている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人の話を傾聴し、相槌を打ったり表情をしっかりと観察しながら、こちらも理解しようと努めていることを分かってもらえるようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 管理者、ケアマネ、現場の職員と家族間で綿密にアセスメントを行い、家族の方の不安や困っている事を聞き取れるようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 面接において十分に話し合い、利用者や家族の意向に対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) できる範囲内で、掃除、洗濯物干しや洗濯物たたみ、調理の補助や味見、草引きなど一緒になり行っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 本人の生活状況を書いた手紙を、毎月家族さんへ送っている。生活状況に変化があれば電話を掛けたり、面会時に話をする事でコミュニケーションを図り、本人を支えていく為の信頼関係を築けるよう努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者の生活歴を本人や家族さんに聞き、行事に活かしている。神社などのお参りにも行っている。 (外部評価) 地元の利用者が多く、毎月12日は近くにお寺参りに出かけている。学生時代の友人や知人が訪ねてくることもあるが、最近の来訪は少なくなってきたため、法人内のデイサービスに出かけるなど、新たな馴染みの関係も構築できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりの性格や、他の利用者との関わり方等を把握し、より良いコミュニケーションがとれるよう座席にも配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 利用終了の際も、きめ細かく引き継ぎ、説明を行い、アフターフォローをし、いつでも相談にのれるようにしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) できるだけ本人の希望に沿うようにしている。困難な場合は本人の主体性を尊重し、より良い決定ができるように助言している。意思表示が困難な利用者については、家族や利用者をよく知る関係者から情報を得て本人の立場に立って考えるようにしている。 (外部評価) 入居時に本人や家族から好きだったことや編み物などの趣味があることを聞き、介護計画に取り入れている。認知症のため、食事中に不穏になる場合は、それを個性と捉え接しており、他の利用者には職員が説明するなどフォローしている。入居当時に帰宅願望が強かった利用者も、ゆっくり会話をし不安を受け止めることで徐々に落ち着いている。何をする場合も必ず利用者に確認し説明している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用者の生活歴を本人や家族さんから聞き、職員全員が把握するようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 会話や行動、態度などを通して本人の希望や、したいと思っている事を察して援助するようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) アセスメントに基づいて、利用者主体の目標を立てている。ミニカンファレンスで本人や家族の意見や要望を聞いている。その後、医師や看護師も加わったカンファレンスで話し合い、本人本位の介護計画を作成している。サービス内容は、具体的なものになっている。 (外部評価) 職員でミニカンファレンスを行っている。必ず利用者の現在の状態と気づいた点を職員に前もって書いてもらい、それを基に話し合いをしている。ミニカンファレンスの記録が残されていないため、今後はパートや夜勤者等誰が見てもわかるようまとめたいと考えている。また、経過記録の内容をもっと掘り下げて良いものにするため、記録の方法について研修の機会を持つよう検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 経過表を記入し、ケア行動計画の実施状況を毎日チェックし、評価することで状態変化をすぐに察知できるようにしている。特別変化のあった事は日誌に記入し申し送り、職員間で情報を共有している。3ヶ月に1度見直しを行っているが、状態変化があればその都度カンファレンスを開き、新たに作成している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の要望や意見をカンファレンスで取り入れるようにしている。関連デイサービスの活動に参加するなど、利用者の生活に広がりを持てるよう努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 他事業所と連携を取り、福祉用具のレンタルなど利用者一人ひとりに合わせたサービス提供を行っている。消防署、警察や地域包括支援センターなどの機関や民生委員、ボランティア等と協力しながら支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 母体が診療所の為、入居前から殆どの方がかかりつけ医であり、本人や家族は納得されている。定期的な訪問診察や、必要時に往診や訪問看護を受けられる体制にある。主治医が利用者の状態を把握できるように詳しく記録し提示している。緊急時にはすぐに対応できるようにしている。	
			(外部評価) 母体が診療所のため、訪問診療や訪問看護など医療連携が整っている。何かあれば母体診療所に連絡すると即対応が可能である。病気等で不安があれば、母体診療所や地域の病院を受診することができ、胃瘻の管理も協力病院が行うなどの支援があり安心である。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 診療所の看護師とは顔馴染みの為、いつでも相談に乗ってもらえる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には情報を介護要約書や電話連絡にてスムーズに提供し、綿密な連絡を取っている。定期的に連絡や面会を通して状態を把握し、受け入れ態勢を整えている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の意向を聞き、主治医やケアマネ、職員や家族間で話し合い方針を立てている。「看取り介護」の同意書の同意書を得ると毎日の容態を記したものを家族に報告している。	
			(外部評価) 開設時から看取りを行っており、家族へも入居時に看取りまで行う旨の説明をしている。看取りの時期が近づくと職員も不安になるため管理者が相談に乗っている。看取りの研修も毎年行い、看取りの時期になると医師から細かい指示があるなど理解を深めており、家族への説明も必ず医師が行っている。家族も高齢で経過を電話で伝えにくい場合は、文書で連絡するよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時のマニュアルがあり、職員全員が目を通し学習している。必要時は、消防署に協力を仰ぎ指導してもらっている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 防災訓練を定期的に行っている。緊急連絡網を作り、全員に配布している。 (外部評価) 火災想定避難訓練を年2回実施し、消防署に救命救急講習をしてもらっている。地域の方々の災害避難訓練は今のところ行っていないが、市が福祉避難所を募り、母体診療所も協力の意思があり、今後は地域と合同で訓練も行いたいと考えている。消防署に救命救急講習をもらっている。大規模災害のマニュアルや備蓄品が不十分なため、緊急時に対応できるよう法人全体で整備について検討し、職員全員に意識化していきたいと考えている。	災害はいつ起こるか分からないため、風水害や大規模災害に対するマニュアル作成が急務と思われる。施設内での備蓄場所の確保が難しいとのことであるが、災害時に備え事業所の備蓄は不可欠なため、十分保管できるような倉庫等の確保を望みたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 常に気配りを行い、丁寧な言葉遣いを心掛けている。特に排泄面では気を付けている。また、職員同士でお互いに注意し合うようにしている。 (外部評価) 誇りやプライバシーを損ねないよう利用者一人ひとりに対しての声かけなど配慮している。排泄の支援では、その人に合わせてトイレ誘導を行い、上手くいかない時には職員間で話し合いをして状況を共有している。精神的に不安定になりやすい利用者に対しては、様子を観察しながらタイミングを見計ったり、職員を変えるなどの対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 受容の姿勢を心掛け、利用者の希望に耳を傾け、できる事を見極めケアプランにも盛り込んで日課として取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 食事や入浴、就寝など一人ひとりのペースに合わせて支援している。外出や買い物などの希望も、その都度支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 利用者の希望に沿って対応している。 また、月に一度美容師が来ている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者に、食べたい物や調理方法を聞いたり、季節やイベントに合った献立を取り入れている。職員も一緒に食事を摂り、感想などを聞き次の献立や調理方法に活かしている。食事の準備や片付けを利用者が手伝ってくれている。 (外部評価) 母体診療所の管理栄養士がカロリー計算を行い、献立を立てているが、ユニットごとに利用者の希望や好みも聞きながらアレンジしてメニューに反映している。季節に応じた行事食など食事を楽しんでもらうよう配慮している。利用者にも食事の下ごしらえや後片付けなど、本人の負担にならない範囲で手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個人別に、水分・食事摂取量を付け、1日を通して摂取量を確保できるよう職員が把握できるようになっている。水分は1日1200mlの摂取を目安にしている。食事量が少ない場合は、栄養価の高い食品や飲み物を進めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 利用者の状態に応じた口腔ケアを行っている。歯ブラシ、クルリーナ、舌ブラシ等それぞれに合った物を使用し、自分できない方への支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) プライバシーには十分に配慮し、一人ひとりのできる力に合わせた支援を行っている。失禁を減らすよう、声掛けやトイレ誘導、排泄時間を記入するなどして早めの対応をしている。	
			(外部評価) 排泄パターンを把握し、一人ひとりのペースに合わせて支援を行っている。立位がとれ座位が保持できる利用者にはトイレで排泄できるよう努めている。利用者の尊厳や羞恥心に配慮しながらトイレ誘導等を行っているが、排泄がスムーズにいかない場合は、その都度職員間でなぜそうなったのかを話し合いケアに生かしており、難しい時もあるが、試行錯誤しながら継続していきたいと考えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 主治医に相談し、一人ひとりの状態に応じて排便コントロールを行っている。飲み物や食材に気を付けている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者の希望に沿って臨機応変に対応している。状態の不安定な利用者や拒否のある利用者に対して、時間をおいたり翌日に変更したりと無理のないようにしている。	
			(外部評価) 週3回の入浴が基本であるが、利用者同士で一緒に入りたいなどの希望があればその都度対応し、楽しんで入浴してもらえている。リフトやシャワーキャリーを設置したり、重度化の利用者には2人介助で支援している。また、少しずつ身体状況の低下などもみられるため、浴槽の中で使用する浴槽台の導入等も検討しており、利用者が安心して入浴できるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) いつでも休息がとれるように、居室やホール内をオープンにしている。また、個人の状態に合わせ、居室休憩を行っている。昼夜逆転がないように、日中の活動に気を付けている。夜間の明るさや利用者の声掛けに気を付けている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) お薬手帳や薬についての表があり、薬に変更があった時は目を通し、薬の効果や副作用についていつでも把握できるようにしている。また、疑問やわからない事があれば、主治医や薬剤師の方が相談に乗ってくれている。ADLの低下により、服薬管理や服薬援助は職員が行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 家事の好きな方は、掃除や洗濯物たたみ、調理の補助などをされている。雑誌を読まれたり、歌を歌ったりして過ごされる方もおり、アセスメントなどを通し本人のしたい事や気分転換が図れるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日は外で体操をしたり、散歩に出たりしている。毎月12日の隻手薬師の参拝も支援している。近くのコンビニまで買い物に出かけたり、同系列のデイサービスのレクに参加したりもしている。 (外部評価) 毎月のお寺参りや散歩など、本人の希望を聞き、自由に参加してもらっている。季節感を肌で感じてもらいたいと考え、外出の機会は多く設けているが、重度化の利用者の気分転換の機会を増やすため、事業所の庭で利用者と職員全員が体操をするなどの支援をしている。また、法人内のデイサービスで地域住民等と交流するなど、楽しい時間が過ごせるよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 認知症の進行に伴い、現在では自分で金銭管理ができる方がおらず、職員が買い物など必要な支援をしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者から希望がある時は電話している。 手紙も、希望があれば職員が手伝いや取り取りができるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 定期的に利用者と一緒に外に咲いている花を採って、ホールに花を飾っている。居室からの眺めもよく、自然光がしっかりと入りホール内も明るく気持ちよく過ごせる。	
			(外部評価) リビングにはソファ、テーブルや加湿器を設置し、快適にゆったり過ごせるよう努めている。ソファでくつろいだり、居室で休んだり思い思いの時間を自由に過ごしている。利用者には洗濯物を畳んだり食事の準備など、できることをできるときに手伝ってもらっている。食後は胃酸の逆流を防ぐため1時間くらいは座って過ごしてもらうなどの配慮もしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 本人の望むように、過ごした居場所で過ごせるようにしている。他館との交流もあり、いつでも行き来できるよう支援している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 以前から本人が使用していた馴染みの物を置いたり、写真を飾ったり家族が持ってきてくれた物を居室に置き、居心地よく過ごせるよう配慮している。	
			(外部評価) 居室は畳とフローリングの部屋があり、利用者の状況に合わせて使用している。洋服ダンスとベッド、エアコンが常備されているほか、使い慣れた馴染みの置物など自由に持ち込むことができ、居室で居心地よく過ごせるよう配慮している。また、家族の協力を得て季節ごとの衣替えをするなどの支援もしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレや浴室に手すりを設置しており、声掛けや軽介助で安全に生活できるようにしている。また、居室やホールは転倒や怪我のリスクを考え、不必要な物は除けたり配置を職員間で話し合い調整している。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873300283
法人名	医療法人 辻井循環器科内科
事業所名	グループホーム つじい
所在地	愛媛県東温市田窪253番地2
自己評価作成日	平成 28年 9月 30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28年 11月 4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>健康管理が行き届いている。 職員が真面目に努力し精一杯対応出来ていて好感が持てる。 精神面、健康面でサポートしている。 利用者は楽しく笑いあいながら毎日を送っている。 家庭的で、寂しくなく温和に過ごしている。 環境もよく落ち着いた雰囲気であり、明るいホームである。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所の役割として地域との共存や利用者一人ひとりの尊重を心がけている。利用者が日々の暮らしを安全で安心して楽しく過ごしてもらえるように、職員全員で話し合っケアを行っている。法人母体が診療所ということもあり、定期的な往診や急変時の対応など医療連携ができています。開設時からターミナルケアにも取り組んでおり、穏やかに安心して最期まで事業所で過ごせるよう努め、慢性疾患等の利用者も安心して生活できている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

事業所名 グループホームつじい

(ユニット名) 東館1階

記入者(管理者)
氏名 吉岡 隼児

評価完了日 平成 28 年 9 月 30 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 地域密着型サービスを目指している当グループホームでは、四季折々の地域の行事に参加して地域の交流を大切にしている。	
			(外部評価) 社訓とグループホームの理念があり、「共に生きる。一人ひとりの気持ちを大切にする。きめ細かな健康管理。地域との交流を大切にする。」のケア理念は、職員みんなで話し合い決めている。職員には、申し送り時に定期的に伝えてケアに反映できているか確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 運営推進委員会を通じて、地域の行事等の情報を提供して頂き地方祭等地域の行事に利用者と共に参加している。又毎月12日には、隻手薬師に参拝している。	
			(外部評価) 地域の行事(秋祭り、夏祭り、敬老会、文化祭など)には積極的に参加している。亥の子は、建物の中に入って来てもらっている。法人のデイサービスに参加することもあり、今後は地区で催しているサロンへも参加したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 認知症に対する介護方法や理解等の相談にいつでも対応できる様に研修の受け入れ体制がある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、そこでの意見をサービス向上に活か している	(自己評価) 会議で話し合った中で、意見助言等を管理者や職員間で話し 合い、サービスの向上に活かしている。報告書は会議参加者 全員に配布している。	
			(外部評価) 会議には利用者家族、区長、民生委員、市担当者、地域包括 支援センター職員などが参加している。会議では、事業所の 利用状況や活動報告を行っている。消防の方から東温市の救 急の問題などについて話があったことを伝えると、参加者か らは情報を知ることができて良かったと感想をもらってい る。ただ、事業所内のことにはあまり発言がないため、個人 情報に配慮しながら、もっと開けた場所になりたい、地域と の関係づくりを進めたいと考えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業 所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝 えながら、協力関係を築くように取り組んでい る	(自己評価) 運営推進委員会等で交流を持ち、協力関係を築くように取り 組んでいる。	
			(外部評価) 東温市との協力関係は良好で、運営推進会議にも必ず参加し てもらっている。管理者は日常的に長寿介護課へ行き相談す る関係ができています。2年に1度の実施指導の際にも助言を もらい改善している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁 止の対象となる具体的な行為」を正しく理解し ており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしない ケアに取り組んでいる	(自己評価) 精神興奮時や、暴力行為の見られる利用者に対し、身体拘束 をせず対応する方法について職員間で話し合いより良い方法 を導き出し、常に身体拘束の無いケアに取り組んでいる。	
			(外部評価) 身体拘束についての研修を実施し、理解を深めている。車通 りの多い県道に面しているが、玄関に施錠はしていない。新 規の利用者は玄関の扉が開くとチャイムが鳴るようにして様 子をみているが、今のところ外へ出る方はいない。安全面を 考慮しつつ、できるだけ自由に生活してもらえよう努めて いる。危険な場合は職員で話し合いをして対応を検討してい る。安全面を考慮の上家族同意の下、居室には双方から開け 閉めできる鍵を設置しているユニットもあるが、通常は施錠 していない。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会に参加し学んでいる。研修内容は、内容書類を回覧したり、ミーティング等で説明したりして職員全員が把握出来る様になっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修等で学び、報告書を作成して職員に内容を説明している。内容書類を回覧して職員全員が把握出来るようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者、ケアマネ、職員が詳しく説明をし、質問にも対応している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者や家族さんからの意見や要望はいつでも受け付け、対応は管理者が行い計画担当者間で報告し合っている。 (外部評価) 運営推進会議に参加してもらったり、意見箱も設置しているが、利用者や家族からの運営に関する意見は得られていない。法人の他の事業所の管理者等と相談しながら、家族からどんなことをしてほしいかなどを答えやすいようにまとめたアンケートを作成したいと考えているが実現していない。	事業所では、運営に限らず利用者や家族から意見や要望を気軽に聞ける関係づくりを目指している。利用者や家族から、運営や普段の生活の中でどんなことを希望しているか、改善点などがあるか、職員全員でアンケート用紙の作成に取り組むことを期待したい。職員一人ひとりが取り組むことで、事業所の一員として介護に対する意識の向上にもつながることに期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者と職員間でミーティングや申し送りを行い、意見する場や話し合いの場を多く持っている。 (外部評価) ケアカンファレンスでも自由に意見が言えるように、ユニット間で話し合いができるようになってきている。職員の人数に限りがあるため、日々の介護はある程度役割分担を行っているが、研修の資料作成も職員が分担するようになり、今後は、それ以外の日常業務等も少しずつ他の職員に割り振れるよう検討しており、そうすることで気づき等意識が変わるのではないかと考えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員同士お互いに協力し合い、話し合いの場をもうけている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) ミーティングやカンファレンス時に対応方法等を助言し、勉強会も行っている。外部の研修会にも参加している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 各種講習会や勉強会の案内には積極的に参加し、報告会も開いている。お互いに意見交換を行い交流を深めている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) まず本人の話をよく聞き、相槌を打ち、こちらも理解している事を分かってもらうようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が 困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾 けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 管理者やケアマネ、現場の職員等と家族間で綿密にモニタリ ングを行い家族の方の不安や心配事を聞き取るようにしてい る	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族 等が「その時」まず必要としている支援を見極 め、他のサービス利用も含めた対応に努めてい る	(自己評価) 面接し、十分に話し合っている。本人に必要なサービスを提供 している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、暮らしを共にする者同士の関係を築いてい る	(自己評価) 本人を理解する事に努め、利用者さんへの支援に対し「あり がとう」と感謝の言葉をかけられた時には喜びを感じてい る。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本 人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 本人の生活状況を家族に伝えたり、話しをする事でコミュニ ケーションをとり、信頼関係を作り、本人を支える関係作り に努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めてい る	(自己評価) 地域や入居者に馴染みの季節のならわし等を入居者主体に なってもらいながら行っている。 (外部評価) 地元の利用者が多く、毎月12日は近くにお寺参りに出かけ ている。学生時代の友人や知人が訪ねてくることもあるが、 最近の来訪は少なくなってきているため、法人内のデイサー ビスに出かけるなど、新たな馴染みの関係も構築できるよう 努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ホールで楽しく過ごし、お互い助け合う場面が多く見られる。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) アフターフォローにも気を付けている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者さんとの日常生活で本人の希望を知ったり、家族さん等から情報を得て本人の立場に立って考えている。 (外部評価) 入居時に本人や家族から好きだったことや編み物などの趣味があることを聞き、介護計画に取り入れている。認知症のため、食事中に不穏になる場合は、それを個性と捉え接しており、他の利用者には職員が説明するなどフォローしている。入居当時に帰宅願望が強かった利用者も、ゆっくり会話をし不安を受け止めることで徐々に落ち着いている。何をする場合も必ず利用者に確認し説明している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 会話等で聞いたり、ミーティング等で個人の背景を知るようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 経過表等記録し、全員が目を通せるようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 3ヶ月毎ケアプランを見直し、家族・管理者を交えカンファレンスを行っている。体調に変化があった時にはその都度、家族さんに連絡をしています。 (外部評価) 職員でミニカンファレンスを行っている。必ず利用者の現在の状態と気づいた点を職員に前もって書いてもらい、それをに基に話し合いをしている。ミニカンファレンスの記録が残されていないため、今後はパートや夜勤者等誰が見てもわかるようまとめたいと考えている。また、経過記録の内容をもっと掘り下げて良いものにするため、記録の方法について研修の機会を持つよう検討している。	ミニカンファレンスで話し合った内容の記録を、次回のモニタリングの際や介護計画作成にも振り返るために残していくことを検討して欲しい。経過記録の記入内容も、利用者一人ひとりのケアの内容や生活の在り方がわかるような記録にしていくことで、グループホームという終の住処での日々の暮らしに役立てていくことを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 経過表、ケアプランのチェック、カルテ記入を毎日行っています。3ヶ月毎にスタッフ参加のミニカンファレンスで話し合い見直しをしています。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の要望を、カンファレンスで取り入れるようにしています。デイサービスの利用や地域行事への参加も行っています。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 民生委員、警察署、地域包括センター等の機関に協力を得ながら支援している。消防署に協力してもらい避難訓練も行っています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 月2回の往診があります。他に外科、皮膚科、歯科等の受診・往診をお願いしています。 (外部評価) 母体が診療所のため、訪問診療や訪問看護など医療連携が整っている。何かあれば母体診療所に連絡すると即対応が可能である。病気等で不安があれば、母体診療所や地域の病院を受診することができ、胃瘻の管理も協力病院が行うなどの支援があり安心である。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 管理者が看護師である為、相談し迅速な対応・対処が出来る。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時、文書や電話にて情報を提供している。面会や家族さんから状況把握しています。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 家族さんの希望を聞き、主治医、ケアマネ、職員間で話し合いをしている。 (外部評価) 開設時から看取りを行っており、家族へも入居時に看取りまで行う旨の説明をしている。看取りの時期が近づくと職員も不安になるため管理者が相談に乗っている。看取りの研修も毎年行い、看取りの時期になると医師から細かい指示があるなど理解を深めており、家族への説明も必ず医師が行っている。家族も高齢で経過を電話で伝えにくい場合は、文書で連絡するよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時マニュアルがあり、職員全員が目を通し学習している。管理者から定期的に指導がある。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 防火訓練を定期的に行っている。緊急連絡網を作り全員に配布している。	
			(外部評価) 火災想定避難訓練を年2回実施し、消防署に救命救急講習をしてもらっている。地域の方々との災害避難訓練は今のところ行っていないが、市が福祉避難所を募り、母体診療所も協力の意思があり、今後は地域と合同で訓練も行いたいと考えている。消防署に救命救急講習をもらっている。大規模災害のマニュアルや備蓄品が不十分なため、緊急時に対応できるよう法人全体で整備について検討し、職員全員に意識化していきたいと考えている。	災害はいつ起こるかわからないため、風水害や大規模災害に対するマニュアル作成が急務と思われる。施設内での備蓄場所の確保が難しいとのことであるが、災害時に備え事業所の備蓄は不可欠なため、十分保管できるような倉庫等の確保を望みたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 気配りを常に行い、丁寧な言葉使いを心掛けている。特に排泄面には気を付けている。職員同士お互いに注意し合うようにしている。	
			(外部評価) 誇りやプライバシーを損ねないよう利用者一人ひとりに対しての声かけなど配慮している。排泄の支援では、その人に合わせてトイレ誘導を行い、上手くいかない時には職員間で話し合いをして状況を共有している。精神的に不安定になりやすい利用者に対しては、様子を観察しながらタイミングを見計ったり、職員を変えるなどの対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 「受容」の姿勢を心掛け、利用者さんの希望に耳を傾け出来る事を見極め、ケアプランに盛り込んで日課として取り組んでいる。職員がすぐに答えを出さず本人が決定出来る様な声掛けや場面を作っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどの ように過ごしたいか、希望にそって支援してい る	(自己評価) 食事や入浴等、利用者1人1人のペースに合わせて支援して いる。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している	(自己評価) 利用者さんの希望に添って対応し、季節に合った服装にして いる。月に1回美容師が来られる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの 好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒 に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食べたい物を利用者さんに聞いたりしている。利用者さんと 一緒に食事を作ったり、食事の準備、片付けを利用者さんと 一緒に行っている。 (外部評価) 母体診療所の管理栄養士がカロリー計算を行い、献立を立て ているが、ユニットごとに利用者の希望や好みも聞きながら アレンジしてメニューに反映している。季節に応じた行事食 など食事を楽しんでもらうよう配慮している。利用者にも食 事の下ごしらえや後片付けなど、本人の負担にならない範囲 で手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習 慣に応じた支援をしている	(自己評価) 水分食事摂取表を付け、1日を通じて摂取量を職員が把握出 来ようになっている。食事量が少ない時は声掛けやミキ サー食にし、対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 利用者さんに応じた口腔ケアを行い、歯ブラシ、モアブラ シ、ガーゼ等それぞれに合った物を使用し、自分で出来ない 方への支援を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 利用者一人一人必要に応じて声掛けやトイレ誘導を行っている。	
			(外部評価) 排泄パターンを把握し、一人ひとりのペースに合わせて支援を行っている。立位がとれ座位が保持できる利用者にはトイレで排泄できるよう努めている。利用者の尊厳や羞恥心に配慮しながらトイレ誘導等を行っているが、排泄がスムーズにいかない場合は、その都度職員間でなぜそうなったのかを話し合いケアに生かしており、難しい時もあるが、試行錯誤しながら継続していきたいと考えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事や水分など、利用者に応じた取り組みを行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 週3回の入浴を行っているが、希望があればいつでも入って頂いている。	
			(外部評価) 週3回の入浴が基本であるが、利用者同士で一緒に入りたいなどの希望があればその都度対応し、楽しんで入浴してもらっている。リフトやシャワーキャリーを設置したり、重度化の利用者には2人介助で支援している。また、少しずつ身体状況の低下などもみられるため、浴槽の中で使用する浴槽台の導入等も検討しており、利用者が安心して入浴できるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者の体調に合わせ、居室で休息を取る時間を決め、状態によって対応している。夜間眠れない人がいたら要因を探り眠れるように対応する。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) かかりつけ医師の説明を受け、服薬の受要性を理解し支援している。1ヶ月に1回、カンファレンスに薬剤師を招いて薬の目的について説明をして貰っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 本人をしっかりアセスメントして、好きな事ややりたい事を把握して支援している。また職員全員でその事を共有している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日は外に体操に出たり、ミニデイで外食に出掛けたりしている。地域での行事にも参加して、地域の人々との関わりも密に図るようにしている。	
			(外部評価) 毎月のお寺参りや散歩など、本人の希望を聞き、自由に参加してもらっている。季節感を肌で感じてもらいたいと考え、外出の機会を多く設けているが、重度化の利用者の気分転換の機会を増やすため、事業所の庭で利用者と職員全員が体操をするなどの支援をしている。また、法人内のデイサービスで地域住民等と交流するなど、楽しい時間が過ごせるよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人が使えない場合は、職員が代わりに買い物に行き手助けをしている。ホームに1週間に2回パン屋が来る為、その際はお金を使えるようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙を書いたり、職員が手伝いながら書いて出している。希望があれば家族に直接電話をして貰っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) その月の季節に合わせて、飾りを職員と利用者一緒に飾っている。 (外部評価) リビングにはソファ、テーブルや加湿器を設置し、快適にゆったり過ごせるよう努めている。ソファでくつろいだり、居室で休んだり思い思いの時間を自由に過ごしている。利用者には洗濯物を畳んだり食事の準備など、できることをできるときに手伝ってもらっている。食後は胃酸の逆流を防ぐため1時間くらいは座って過ごしてもらうなどの配慮もしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 仲の良い利用者さんは居室でお話をして過ごして貰っている。希望がある時は一緒に入浴をしてもらい交流を大切にしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) なるべく使い慣れたものを置くようにしている。足りない物があれば、家族に連絡して持ってきて貰うようにしている。家族が来られた際は一緒に写真を撮って飾るようにしている。 (外部評価) 居室は畳とフローリングの部屋があり、利用者の状況に合わせて使用している。洋服ダンスとベッド、エアコンが常備されているほか、使い慣れた馴染みの置物など自由に持ち込むことができ、居室で居心地よく過ごせるよう配慮している。また、家族の協力を得て季節ごとの衣替えをするなどの支援もしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 個人の状態に合わせて、本人が落ち着いて過ごせる様に配慮し職員が常に見守りを行っている。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873300283
法人名	医療法人 辻井循環器科内科
事業所名	グループホームつじい
所在地	愛媛県東温市田窪253番地2
自己評価作成日	平成 28年 9月 30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28年 11月 4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>健康管理が行き届いている。 職員が真面目に努力し、精一杯対応できていて好感が持てる。 精神面、健康面でサポートしてくれる。 利用者は、楽しく笑いあいながら毎日を送っている。 家庭的で寂しくなく、温和に過ごしている。 環境も良く落ち着いた雰囲気もあり、明るいホームである。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所の役割として地域との共存や利用者一人ひとりの尊重を心がけている。利用者が日々の暮らしを安全で安心して楽しく過ごしてもらえるように、職員全員で話し合っケアを行っている。法人母体が診療所ということもあり、定期的な往診や急変時の対応など医療連携ができています。開設時からターミナルケアにも取り組んでおり、穏やかに安心して最期まで事業所で過ごせるよう努め、慢性疾患等の利用者も安心して生活できている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

事業所名 グループホームつじい

(ユニット名) 東館2階

記入者(管理者)
氏名 吉岡 隼児

評価完了日 平成 28年 9月 30日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 一人ひとりの個性を尊重し、地域に密着した生活を支援していくことを理念とし、地域と密着したグループホームを目指すことをあげている。ホームとしての理念を掲げている。</p> <p>(外部評価) 社訓とグループホームの理念があり、「共に生きる。一人ひとりの気持ちを大切に。きめ細かな健康管理。地域との交流を大切に。」のケア理念は、職員みんなで話し合い決めている。職員には、申し送り時に定期的に伝えてケアに反映できているか確認している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地方祭、敬老会、文化祭などの地域の行事に、利用者と共に参加したり、来訪により交流を持っている。管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声掛けあったり、気軽に立ち寄ってもらえるように、日常的に努めている。</p> <p>(外部評価) 地域の行事（秋祭り、夏祭り、敬老会、文化祭など）には積極的に参加している。亥の子は、建物の中に入って来てもらっている。法人のデイサービスに参加することもあり、今後は地区で催しているサロンへも参加したいと考えている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 認知症に対する介護方法や理解などの相談にいつでものれるようにしている。ボランティア、研修の受け入れ体制がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 会議で出た貴重な意見を取り上げ、管理者や職員間で話し合い、サービスの向上に活かしている。報告書は会議参加者全員に配布している。	
			(外部評価) 会議には利用者家族、区長、民生委員、市担当者、地域包括支援センター職員などが参加している。会議では、事業所の利用状況や活動報告を行っている。消防の方から東温市の救急の問題などについて話があったことを伝えると、参加者からは情報を知ることができて良かったと感想をもらっている。ただ、事業所内のことにはあまり発言がないため、個人情報に配慮しながら、もっと開けた場所になりたい、地域との関係づくりを進めたいと考えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 2カ月に1回、運営推進委員会などで交流を持っている。	
			(外部評価) 東温市との協力関係は良好で、運営推進会議にも必ず参加してもらっている。管理者は日常的に長寿介護課へ行き相談する関係ができている。2年に1度の実施指導の際にも助言をもらい改善している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員間で、身体拘束をしない方法での対応について、話し合い、常に身体拘束のないケアに取り組んでいる。	
			(外部評価) 身体拘束についての研修を実施し、理解を深めている。車通りの多い県道に面しているが、玄関に施錠はしていない。新規の利用者は玄関の扉が開くとチャイムが鳴るようにして様子を見ているが、今のところ外へ出る方はいない。安全面を考慮しつつ、できるだけ自由に生活してもらえよう努めている。危険な場合は職員で話し合いをして対応を検討している。安全面を考慮の上家族同意の下、居室には双方から開け閉めできる鍵を設置しているユニットもあるが、通常は施錠していない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会に参加し学んでいる。制度内容はミーティングなどで説明したり、内容書類を回覧して職員全員が把握できるようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修などで学び、報告書を作成して職員に内容を説明している。内容書類を回覧して職員全員が把握できるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者、ケアマネ、職員が詳しく説明をし、質問にも対応している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進委員会に家族さんの参加により、意見や要望を受けています。日常においては、利用者や家族さんからの意見や要望は、いつでも受け付け、対応は管理者が行い計画担当者間で報告しあっている。 (外部評価) 運営推進会議に参加してもらったり、意見箱も設置しているが、利用者や家族からの運営に関する意見は得られていない。法人の他の事業所の管理者等と相談しながら、家族からどんなことをしてほしいかなどを答えやすいようにまとめたアンケートを作成したいと考えているが実現していない。	事業所では、運営に限らず利用者や家族から意見や要望を気軽に聞ける関係づくりを目指している。利用者や家族から、運営や普段の生活の中でどんなことを希望しているか、改善点などがあるか、職員全員でアンケート用紙の作成に取り組むことを期待したい。職員一人ひとりが取り組むことで、事業所の一員として介護に対する意識の向上にもつながることに期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 定期的にミーティングを行い、管理者と職員間で話し合いをする機会を設けている。朝の申し送り時に管理者がそれぞれの意見や提案を聞く機会を持っている。 (外部評価) ケアカンファレンスでも自由に意見が言えるように、ユニット間で話し合いができるようになってきている。職員の人数に限りがあるため、日々の介護はある程度役割分担を行っているが、研修の資料作成も職員が分担するようになり、今後は、それ以外の日常業務等も少しずつ他の職員に割り振れるよう検討しており、そうすることで気づき等意識が変わるのではないかと考えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員同士お互いが協力し合い、時には競い合って働けるような勤務体制を心がけている。職員それぞれの得意な分野が活かせるようにしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内外の研修会に積極的に参加している。研修資料は全員が目を通し、レポートを書いている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 各種講習会や勉強会には積極的に参加し報告会をも開いている。外部研修の受講時に同業者と交流を持ち、他のホームの取り組みを参考にしている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) まず本人の話をよく聞き、相槌を打ち、こちらも理解していることを分かってもらうように努めていることをし分かってもらえるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 管理者、ケアマネ、現場の職員と家族間で綿密にモニタリングを行い、家族の方の不安や心配事を聞きとるようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 面接において十分に話し合い、利用者や家族の意向に対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 料理の味見をしてもらうなど、色々教えてもらう事で共に学び生活できるようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 本人の生活状況を家族に伝えたり、話をすることでコミュニケーションをとり信頼関係を作り、本人を支える関係に努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者の生活歴を本人や家族さんに聞き、行事に活かしている。神社などのお参りにも行っている。 (外部評価) 地元の利用者が多く、毎月12日は近くにお寺参りに出かけている。学生時代の友人や知人が訪ねてくることもあるが、最近の来訪は少なくなってきているため、法人内のデイサービスに出かけるなど、新たな馴染みの関係も構築できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりの性格を把握し、より良いコミュニケーションがとれるよう着席などにも配慮している。自然と仲間意識が芽生え、お互いに助け合う場面が食事中や洗濯たたみの時等にみられる。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 利用終了の際もきめ細かく引き継ぎ、説明を行い、アフターフォローをし、いつでも相談にのれるようにしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 出来るだけ本人の希望に添う様にしている。困難な場合は本人の主体性を尊重し、より良い決定が出来るように助言している。会話の困難な利用者については、家族や利用者をよく知る関係者から情報を得て本人立場に立って考えるようにしている。 (外部評価) 入居時に本人や家族から好きだったことや編み物などの趣味があることを聞き、介護計画に取り入れている。認知症のため、食事中に不穏になる場合は、それを個性と捉え接しており、他の利用者には職員が説明するなどフォローしている。入居当時に帰宅願望が強かった利用者も、ゆっくり会話をし不安を受け止めることで徐々に落ち着いている。何をする場合も必ず利用者に確認し説明している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族や本人から利用者の生活歴を聞き、職員全員が把握しミニディを開いたりしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 会話や行動、態度などを通して本人の希望やしたいと思っていることを察して援助するようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) アセスメントに基づいて、利用者主体の目標を立てている。ミニカンファレンスで、本人や家族の意見や要望を聞き、その後、医師、看護師等も加わったカンファレンスで話し合い、本人本位の介護計画を作成している。サービス内容は、具体的なものにしている。</p> <p>(外部評価) 職員でミニカンファレンスを行っている。必ず利用者の現在の状態と気づいた点を職員に前もって書いてもらい、それをに基に話し合いをしている。ミニカンファレンスの記録が残されていないため、今後はパートや夜勤者等誰が見てもわかるようまとめたいと考えている。また、経過記録の内容をもっと掘り下げて良いものにするため、記録の方法について研修の機会を持つよう検討している。</p>	ミニカンファレンスで話し合った内容の記録を、次回のモニタリングの際や介護計画作成にも振り返るために残していくことを検討して欲しい。経過記録の記入内容も、利用者一人ひとりのケアの内容や生活の在り方がわかるような記録にしていこうと、グループホームという終の住処での日々の暮らしに役立てていくことを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 経過表を記入し、ケア行動計画の実施状況を毎日チェックし、評価することで、状態変化をすぐに察知できるようにしている。特別変化のあったことは、日誌に記入し、申し送り、職員間で情報を共有している。3か月に一度、見直しをしているが、状態変化があればその都度、カンファレンスを開き新たに作成している。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 本人や家族の要望や意見をカンファレンスで取り入れるようにしている。関連デイケアの活動に参加するなど、利用者の生活に広がりを持っている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 他事業所を連携をとり、福祉用具のレンタルなど利用者一人ひとりに合わせたサービス提供を行っている。消防署、警察や地域包括センターなどの機関や民生委員やボランティア等と協力しながら支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 母体が診療所の為、入居前から、ほとんどの方がかかりつけ 医であり、本人、家族は納得されている。定期的は往診や必 要時に往診や訪問看護を受けられる体制にある。主治医が利 用者の状態を把握できるように詳しく記録し提示している。 緊急の際はすぐに対応できるようにしている。 (外部評価) 母体が診療所のため、訪問診療や訪問看護など医療連携が 整っている。何かあれば母体診療所に連絡すると即対応が可 能である。病気等で不安があれば、母体診療所や地域の病院 を受診することができ、胃瘻の管理も協力病院が行うなどの 支援があり安心である。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 診療所の看護師とは顔馴染みの為、いつでも相談に乗っても らえる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には、情報を介護要約書や電話連絡にてスムーズに提 供し、綿密な連絡をとっている。定期的に面会し状態を把握 し、受け入れ態勢を整えている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の意向を聞き、主治医やケアマネ、職員や家族間 で話し合い方針を立てている。「看取り介護」の同意書の同 意書を得ると毎日の容態を記したものを家族に報告してい る。 (外部評価) 開設時から看取りを行っており、家族へも入居時に看取りま で行う旨の説明をしている。看取りの時期が近づくと職員も 不安になるため管理者が相談に乗っている。看取りの研修も 毎年行い、看取りの時期になると医師から細かい指示がある など理解を深めており、家族への説明も必ず医師が行ってい る。家族も高齢で経過を電話で伝えにくい場合は、文書で連 絡するよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時のマニュアルがあり、職員全員が目を通し学習している。管理者から定期的に指導がある。必要時は、消防署に協力を仰ぎ指導してもらっている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 防火訓練を定期的に行っている。緊急連絡網をつくり、全員に配布している。 (外部評価) 火災想定避難訓練を年2回実施し、消防署に救命救急講習をしてもらっている。地域の方々との災害避難訓練は今のところ行っていないが、市が福祉避難所を募り、母体診療所も協力の意思があり、今後は地域と合同で訓練も行いたいと考えている。消防署に救命救急講習をもらっている。大規模災害のマニュアルや備蓄品が不十分なため、緊急時に対応できるよう法人全体で整備について検討し、職員全員に意識化していきたいと考えている。	災害はいつ起こるかわからないため、風水害や大規模災害に対するマニュアル作成が急務と思われる。施設内での備蓄場所の確保が難しいとのことであるが、災害時に備え事業所の備蓄は不可欠なため、十分保管できるような倉庫等の確保を望みたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 常に気配りを行い、丁寧な言葉使いを心掛けている。特に排泄面では、気を付けている。又、職員同士でお互い注意し合うようにしている。 (外部評価) 誇りやプライバシーを損ねないよう利用者一人ひとりに対しての声かけなど配慮している。排泄の支援では、その人に合わせてトイレ誘導を行い、上手くいかない時には職員間で話し合いをして状況を共有している。精神的に不安定になりやすい利用者に対しては、様子を観察しながらタイミングを見計ったり、職員を変えるなどの対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 「受容」の姿勢を心がけ、利用者の希望に耳を傾け、出来る事を見極め、ケアプランにも盛り込んで、日課として取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 食事や入浴、就寝など一人ひとりのペースに合わせて、支援している。外出や買い物などの希望もその都度支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 利用者の希望に添って対応している。家族と美容室に出かけたり、家族が散髪されているところもある。又、月に1回美容師が来られる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食べたい物や調理方法など、利用者さんに聞いたりしている。職員も一緒に食事を摂り、感想などを聞き、次の献立や調理方法に活かしている。食事の準備、片付けを利用者が手伝ってくれる。	
			(外部評価) 母体診療所の管理栄養士がカロリー計算を行い、献立を立てているが、ユニットごとに利用者の希望や好みも聞きながらアレンジしてメニューに反映している。季節に応じた行事食など食事を楽しんでもらうよう配慮している。利用者にも食事の下ごしらえや後片付けなど、本人の負担にならない範囲で手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個人別に水分、食事摂取表を付け、一日を通して摂取量が確保できるよう、職員が把握できるようになっている。水分は一日1200mlの摂取を目安にしている。食事量が少ない場合は栄養価の高い食品や飲み物をお勧めしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 利用者の状態に応じた口腔ケアを行っている。歯ブラシ、クリーナーや舌ブラシ、ガーゼなど、それぞれ合ったものを使用し、出来ない方への支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) プライバシーに配慮し、一人ひとりの出来る力に合わせた支援を行っている。失禁を減らすよう、排泄時間を記入するなどして早めの対応をしている。	
			(外部評価) 排泄パターンを把握し、一人ひとりのペースに合わせて支援を行っている。立位がとれ座位が保持できる利用者にはトイレで排泄できるよう努めている。利用者の尊厳や羞恥心に配慮しながらトイレ誘導等を行っているが、排泄がスムーズにいかない場合は、その都度職員間でなぜそうなったのかを話し合いケアに生かしており、難しい時もあるが、試行錯誤しながら継続していきたいと考えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 主治医に相談し、一人ひとりの状態に応じて、排便コントロールしている。飲み物や、食材に気を付けている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者の希望に添って臨機応変に対応している。状態の不安定な利用者や拒否のある利用者に対して、時間をおいたり、翌日に変更したりと無理のないようにしている。	
			(外部評価) 週3回の入浴が基本であるが、利用者同士で一緒に入りたいなどの希望があればその都度対応し、楽しんで入浴してもらっている。リフトやシャワーキャリーを設置したり、重度化の利用者には2人介助で支援している。また、少しずつ身体状況の低下などもみられるため、浴槽の中で使用する浴槽台の導入等も検討しており、利用者が安心して入浴できるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) いつでも、休息がとれるように居室やホール内をオープンにしている。昼夜逆転がないように日中の活動に気を付けている。夜間の明るさ、利用者への声かけに気を付けています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) お薬手帳や薬についての表があり、薬に変更があった時は目を通し、薬の効能などいつでも把握できるようにしている。ADLの低下により、服薬の管理、服薬援助は職員が行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 家事の好きな方は、洗濯たたみや掃除をしている。歌の好きな方はミニデイなどで、カラオケをしたりして笑顔が見られる。毎朝の日めくりを日課にして楽しみにされている。本がいつでも読めるようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) お天気の良い日に外に散歩のに出たり、毎月片手薬師の参拝も支援している。他館に行き会話をしたり、家族の方が面会に来られると楽しくお話しされている。 (外部評価) 毎月のお寺参りや散歩など、本人の希望を聞き、自由に参加してもらっている。季節感を肌で感じてもらいたいと考え、外出の機会を多く設けているが、重度化の利用者の気分転換の機会を増やすため、事業所の庭で利用者と職員全員が体操をするなどの支援をしている。また、法人内のデイサービスで地域住民等と交流するなど、楽しい時間が過ごせるよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 現在、認知症の進行に伴い、お金の管理がご自分で出来る方はいません。必要な買い物等、職員が支援しています。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者の希望がある時は、電話をしていただいています。現在手紙のやり取りをされている方はいません。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 家族が花や野菜を持ってきてくれる事があるので、飾ったり、献立に盛り込んで利用者との会話もはずんでいる。居室やホールからの外の眺めも良く、おだやかに過ごされています。</p> <p>(外部評価) リビングにはソファ、テーブルや加湿器を設置し、快適にゆったり過ごせるよう努めている。ソファでくつろいだり、居室で休んだり思い思いの時間を自由に過ごしている。利用者には洗濯物を畳んだり食事の準備など、できることをできるときに手伝ってもらっている。食後は胃酸の逆流を防ぐため1時間くらいは座って過ごしてもらうなどの配慮もしている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 強要せずに、ご本人の居たい場所で過ごしてもらっている。日中は、ソファでくつろいだり、利用者同士で話している。又、他の館の方との交流もあり、いつでも行きき出来るように支援している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 以前からご自分で使用されていた、馴染みの物を置いたり、写真を飾ったり、家族が持ってこられるものを居室に置き、居心地良く過ごせるように配慮している。</p> <p>(外部評価) 居室は畳とフローリングの部屋があり、利用者の状況に合わせて使用している。洋服ダンスとベッド、エアコンが常備されているほか、使い慣れた馴染みの置物など自由に持ち込むことができ、居室で居心地よく過ごせるよう配慮している。また、家族の協力を得て季節ごとの衣替えをするなどの支援もしている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) トイレ、浴室、廊下に手すりを付けたり、居室やホールに危険なものがないか、職員間で話し合い確認し配置を考えている。</p>	